

BOOK OF THE WEEK 評者●立川談四樓 落語家

「ブレのなさど気遣いの『落合野球』」

そうか、もう落合の采配は見られないのか。プロ野球もつまらなくなるなど、監督8年間に敬意を表して本書を手を取った。

山井交代の賛否を巡って議論沸騰、かいつまんで言えば、落合は日本一になりながら、袋叩きの目に遭ったのである。

期待したが、内容は想像以上に濃く、そのブレのない理論に、あらためて深く頷くことになった。

落合は静かに語る。「あの場面で最善と思える決断をした」と。ドラゴンズには53年ぶりの日本一が懸かっていた。3勝1敗と王手をかけた第5戦、ここで負けると、札幌に戻ってからの2試合も落としてしまうだろうという、流れからくる読みもあった。

強いのに、人気がない。それが世間の落合評である。有名なのは、山井投手の『幻の完全試合』で、それは2007年の日本シリーズ、日ハム相手の第5戦、山井は8回まで1人の走者も出さなかったのだが、落合は9回に岩瀬を投入したのだ。

山井は4回に右手中指のメメが破れ、出血しながらの熱投であった。そして8回を3者凡退に切り抜け、「もう投げられませんか」と申し出た。

岩瀬投入は山井の望んだことと知るわけだが、ここで落合は、「私も山井の完全試合を見たかった」と言い、更に「ここで投げると言われた岩瀬はキツイだろうな」という気遣いを見せるのだ。正に落合采配、いやジーンとききました。

で落合の抜けた今年の味気なさを思うわけだが、巨人は相変わらずの巨人だし、エースに逃げられたソフトバンクはガタガタだし、DENAはイースターズねえ……。そうか、落合の解説を聞く手があるのかと思うものの、魅力ないなあ。

やっぱりメジャーのダルビッシュとイチローだろう。ダルビッシュは堅いし、記録のプレッシャーから解放されたイチローには300安打の可能性があるから、うん、そう決めた。



采配

●落合博満 ダイアモンド社/1575円

TEMPO

ボックス

十行本棚

座談 書物への愛

粕谷一希 藤原書店・2940円

80歳を超えて益々元気な著者による8本の対談が並ぶ。高橋英夫と書評のあり方を語り合い、新保祐司に「批評とは義憤である」と宣言させてしまう。また塩野七生が明かす「ローマ人の物語」執筆15年の裏話や、森まゆみとの雑誌の魅力をめぐるやりとりも刺激的だ。

NEWS FROM

石川厚志 雷鳥社・1575円

ハイフォットアワード2011グランプリ受賞作を中心とする写真集。臨床心理士をやめ写真撮り始めた父が幼い娘「晴日」に向ける眼差しは温かく、どこか切ない。切り取られた一瞬の表情に生きることへの祈りが宿る。詩人でもある著者のさりげない言葉も魅力的。

ワンモア

桜木紫乃 角川書店・1575円

この連作短篇集のヒロインは女医の柿崎美和。安楽死

問題で市民病院を追われ、島の診療所に赴任している。そんな美和が、癌に侵された親友から個人病院を任せられる。中年看護師の恋や親友と元夫の関係など、周囲の人々の心の揺れも取り込みながら物語は進んでいく。

乱歩彷徨

紀田順一郎 春風社・2000円

乱歩は若い世代が思う「怪人二十面相や明智小五郎のキャラクター原案者」などではない。本書はそうした浅薄な認識を覆す本格評論だ。戦時中、劇的な性格変化を遂げた乱歩。自ら確立した「理想の探偵小説」の概念に忠実であろうとして苦悩した巨匠の深層に迫る。

おじさん図鑑

なかむらるみ 小学館・1050円

イラストレーターの著者が4年に亘って観察を続けた身近にいるおじさんの生態と言動を48に分類し、絵と共に解説。変に遠ざけたりせず、愛情のこもった視点なのが優しい。知人を見て「このタイプ」とあてはめてもよし、自分がどれにあたるかを考えてもよし。